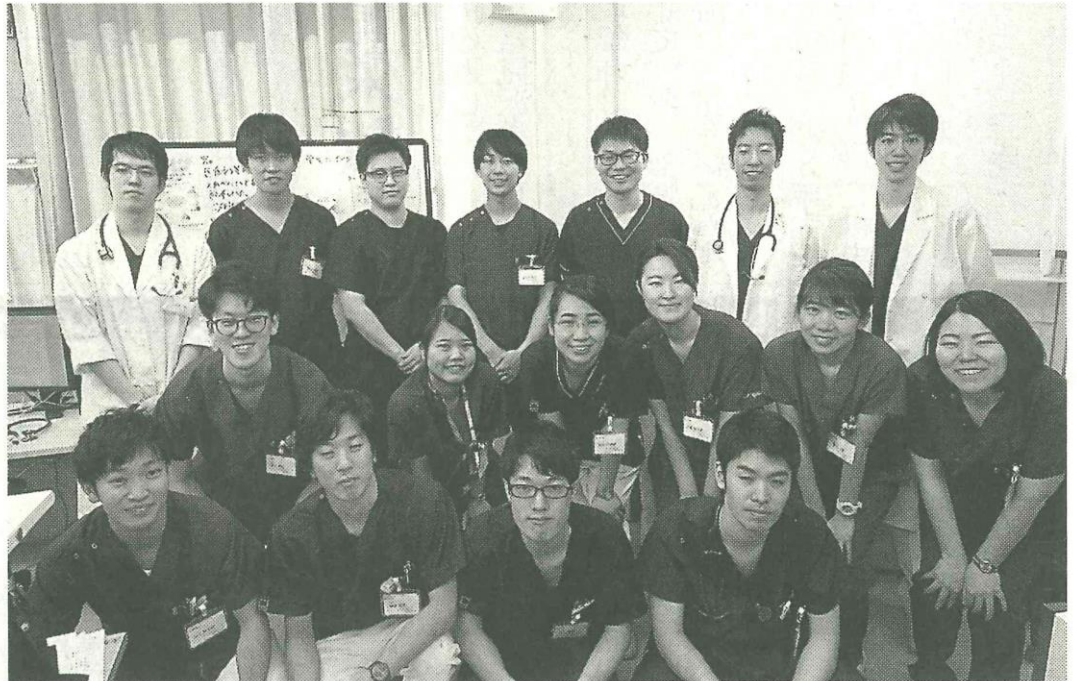


製鉄記念室蘭病院

初期臨床研修医 最多20人

地域貢献へ切磋琢磨



製鉄記念室蘭病院に本年度在籍の研修医ら。在籍数は過去最多となった

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)にこのほど、初期臨床研修医13人が入職した。2019年度の初期臨床研修医の在籍数は20人となり、過去

最多となった。研修医の在籍数は札幌以外では最高レベルといい、前田病院長は「よりの質の高い研修病院を目指して、改善に取り組んできた成果」

と強調。「初期臨床研修医の確保は、地域医療を継続的に維持する観点からも重要」とも説く。同病院では「地域の基幹病院で若い医師を育て

る」とは、結果的にその地域での将来的な医師確保に最も重要であり、かつ有効な基盤になる」との観点から、プライマリ・ケア(緊急対応から健康診断結果の相談まで幅広く行う医療)や、救急医療を含めた基本的診療能力の取得などに最適な体制を整備。

その結果、医学生と研修病院の採用希望を突き合わせる「医師臨床研修マッチング」での受け入れ数が定員9人と同じ(フルマッチ)ーなど、大学協力型を含め、19年度は計13人の初期臨床研修医が入職した。

一方、19年度入職の研修医の中には、室蘭栄高校理数科を卒業した3人の西胆振管内出身者も。伊達市出身の氏家奈々美さん(25)⇨旭医大卒⇨は「内科、外科など、さまざまな分野が地元で学べ

る」、登別市出身の長谷部理矩さん(24)⇨札幌医大卒⇨は「家族もいるため、安心して働けるし、地元への恩返しをしたかった」。出身地の病院を選んだ理由をそれぞれ話す。

また、登別市出身の長久裕太さん(24)⇨札幌医大卒⇨は「地元の医療に貢献したい思いが強かったが、研修医の数が多く、自分には無い考え方や多様な価値観に触れる機会が多い」と、より多くの同期と切磋琢磨できる環境があることを選んだ理由に挙げる。

同病院によると、現在の常勤医や固定医のうち、7人が同病院で初期臨床研修を行った医師だといっ。前田病院長は「初期臨床研修医が成長し、西胆振の地域医療に貢献している。引き続き、教育環境の充実に努めたい」と話す。(松岡秀宜)